

地球温暖化対策計画書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	学校法人 愛知学院
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	愛知県名古屋市千種区楠元町1-100
工場等の名称	末盛キャンパス(北館、西館、南館)
工場等の所在地	愛知県名古屋市千種区末盛通2-11
業種	教育、学習支援業
業務部門における 建築物の主たる用途	学校
建築物の所有形態	自社ビル等(自ら所有し自ら使用している建築物)
事業の概要	学校、病院・医療関連施設 サービス業
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策計画書の公表方法等

公表期間	令和4年7月28日 ～ 令和7年3月31日		
公表方法	○	掲示 閲覧	(場所) 愛知学院大学歯学部附属病院内 施設設備課
		ホーム ページ	(HPアドレス)
		冊子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	(052) 759-2111		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

本病院は、地球温暖化対策の重要性を認識し、削減傾向にある事業活動に伴う温室効果ガスの排出を、各分野における取組により令和6年度までにさらに推進し、その取り組みを通じて持続的発展が可能な社会の実現に貢献します。

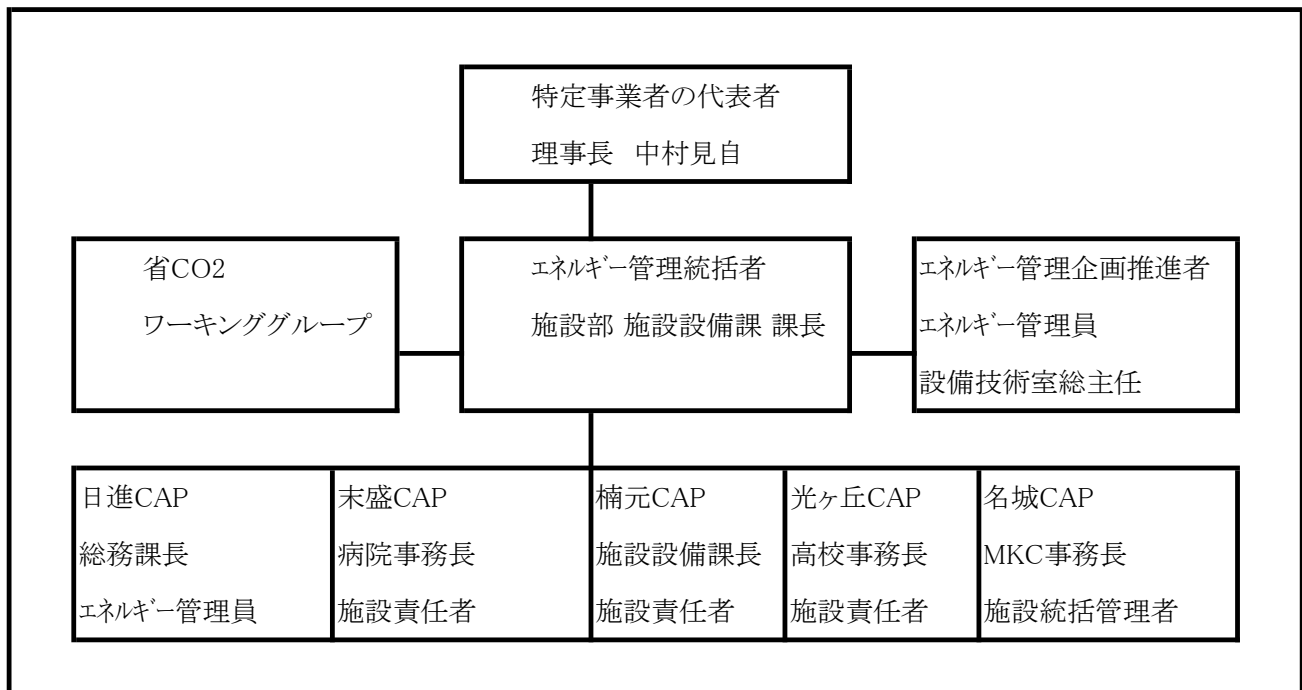
*エネルギーの使用の合理化、改善を図ります。

*空調温度の適正化を図ります。

*廃棄物の減量化、リサイクルを推進します。

*教職員、学生に対する啓発活動を実施します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和 3 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,957	t-CO ₂
①を （温室効果ガス 換算） ②を除く	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六フッ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三フッ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		1,957	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 6 年度	
			目標排出量		目標削減率	
温室効果ガス 総 排 出 量	1,957	t-CO ₂	1,899	t-CO ₂	3.0	%

項 目	基準年度 令和 3 年度 排出量（実績）		目標年度		令和 6 年度	
			目標排出量		目標削減率	
原単位あたりの 排 出 量	0.08815	t-CO ₂ / m ²	0.08551	t-CO ₂ / m ²	3.0	%

（2）目標設定の考え方

温室効果ガスを1年間に1%ずつ、3年間で3%削減するよう努力する。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー、省資源行動の実践（電気）	・ 南館・西館の照明器具を順次LEDに更新する	・ 予算計画に入れる
省エネルギー、省資源行動の実践（冷暖房）	・ 熱源機器・熱搬送機器について、外気温などを考慮し、細やかな発停をすることでエネルギーが減らせるような運用を行う	・ 日々の環境変化に対応できるようにこまめに状況を確認する
省エネルギー、省資源行動の実践（設備・建築）	・ 自動制御機器の計画的な更新 ・ 吸引装置更新工事	・ 予算計画に入れる
省エネルギー、省資源行動の実践（OA機器）	・ 事務機器等、消費効率の高い機器選択に努める ・ 退社時には、OA機器のスイッチを切にする	・ 機種選定部署に周知する ・ 学内広報を利用し周知する
廃棄物の排出抑制	・ 両面コピーと裏面利用 ・ ペーパーレス化を進める ・ リサイクル製品等の分別を図りリサイクル化を進める	

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

ア これまでに実施している再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 計画期間における再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

--

(3) 環境価値（クレジット等）の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

省エネルギー、省資源、温暖化防止を知ってもらうにはポスターの掲示及び学内連絡協議会報に載せて教員・職員・学生等にお知らせをする
